

凋落正に秋深し

(昭和三十八年寮歌)

諏訪正明君 作歌
宮田睦彦君 作曲

一

楡が木の葉の秋風に
吹かれて落つる芝草に
佇む男子の胸の中
散りしく落葉の数知れず
凋落正に秋深し

二

灰青白き月影の
銀杏並木の夜歩きは
小さき鳥の乱れ飛び
路面覆える金色に
憂愁正に秋深し

三

寮が窓越し蔦の葉も
黄色く紅く色づきて
梢を揺する秋風に
鳴るは心のため息か
寂寥正に秋深し

四

ゆえだもあらぬこの悩み
心の底に滲み入りて
ぬぐいも切れずただ涙
流れ落ちては地に吸われ
懊悩正に秋深し